

校長室だより No10

2017年12月5日

柏市立酒井根東小学校

<http://www.sakainee-e.kashiwa.ed.jp/>

校長 梅津 健志

「ねばって 走りぬいた持久走大会」

雨で一日順延しましたが、1日に持久走大会を行いました。

11月のキーワードは「ねばる」。子供たちは最後までねばって、全員完走しました。順位のカードを持ち帰り、家でもいろいろなお話があったのではないかと思います。

今日は持久走を通して東小で重点としている、やり抜く力をどう育てていくかについて書いてみたいと思います。

持久走の練習期間は、毎日の休み時間や放課後に、子供たちがトラックを周回する様子がたくさん見られました。階段の踊り場にも、50周、100周とめあてをもって取り組んだ子供たちの軌跡が記されています。毎日毎日の積み重ねが大きな結果に結び付いて行きます。200mトラックも100周すると20kになります。全校の子供たちが同じことを1か月やり続けるということは、この持久走への取組み以外には無いと思います。

そこで、持久走に取り組んだことによる子供への評価＝フィードバックをもう少し多様化させていきたいと考えています。

持久走はある程度長い距離を同じペースで走ることが運動の目的です。マラソンはある程度長い距離を速く走ることが目的ですから、マラソンとは違うのです。ですから、速かった子供1位から8位の表彰以外にも、表彰してあげる機会を設けていきたいと考えています。

持久走に取り組み始めた1か月前に力試し大会を開き、その時のタイムを基準にして、200mのラップタイムを出し、そのラップタイムで走り続けられるように練習をする。できるようになったら、ラップタイムを1秒速くするというように練習を積み重ねます。そして本番にどれだけタイムを伸ばすことができたかを評価する、「タイム伸ばし賞」の設定。比較的持久走に苦手意識を持っている子供が高い評価を得られやすい賞になります。

また、今回もスタート前に目標タイムを大きな声で言わせてからスタートさせましたが、目標申告タイムに対して±3秒以内であれば、タイムぴったり賞の設定。これは練習成果を評価することになります。低学年には難しいですが、4年生以上には可能だと思います。

データの記録や計算などをIT化し、先生の手間を増やさずに、子供の努力を多様に評価する仕組みを作っていけると、子供たちの努力を認めてあげる機会が増えると思っています。

タイム伸ばしやタイムぴったりという評価があったら、お子様の走りはどうでしたか？

12月のキーワードは「振り返る」です。今までを振り返って子供たち自身が自分の成長を実感できる振り返りをしていきたいと思っています。

